

2024 年 12 月 12 日

マタベレランド北部ルパネ郡における眼科検査・治療のための医療機材供与 引渡式

本日、北マタベレランド州ルパネ郡に位置するセント・ルークス病院で、眼科検査および治療のための医療機器に係る引渡式が実施されました。この式典には在ジンバブエ日本大使館の熊谷裕之臨時代理大使が出席しました。本プロジェクトは、草の根・人間の安全保障無償資金協力を通して、72,910 米ドルの資金が現地 NGO であるサイトセイバーズ・ジンバブエに提供され、同団体が実施したものです。

ルパネ郡はジンバブエの北マタベレランド州に位置する農村地域です。地域の眼科医療及び予防啓発が十分でないことから、失明や白内障を含む眼疾患の発生率が高く、セント・ルークス病院では年間 2,000 件以上の眼科診察を実施しているのにも関わらず、適切な治療を行うための医療機器が不足していました。結果、多くの患者が約 180km 離れたブラワヨの病院を紹介される状況が続き、経済的な制約のために通院を断念せざるを得ない患者の多くは、症状が悪化するといったケースが見受けられてきました。

セント・ルークス病院においては、今回供与された医療機器により既に成果が挙がっており、新しく導入された携行式手術用顕微鏡2台、超音波検査機1台、自動屈折・角膜曲率計2台を使用したことで、43 名の患者が白内障手術を受け、76 名が眼科診察を受けました。今後は、年間約 3,000 人の患者を対象に、眼疾患の早期診断と治療が可能になると期待されています。

また、本プロジェクトでは、日本企業の OUI INC.が開発したスマート・アイ・カメラ6台が供与されました。スマート・アイ・カメラは、経済的、身体的な制約のために病院に来られない患者に対して、様々な眼疾患の遠隔診断を可能にする画期的な携行型スマートフォン用レンズです。

引渡式で熊谷裕之臨時代理大使は、プロジェクトを無事に完了したサイトセイバーズ・ジンバブエ及び病院スタッフに感謝を表し、ルパネ郡における今後の眼科医療環境の発展に対する期待を述べました。また、「導入された眼科医療機器が長年にわたって地域住民の役に立つよう、医療機器を適切に管理する努力を惜しまないでほしい」と被供与団体及び地域住民に呼びかけました。

(式典の様子)



テープカット(熊谷臨時代理大使、保健大臣)



我が国支援を示す ODA プレート



被供与団体サイト・セイバーズから保健大臣等へ供与機材(ポータブル手術用顕微鏡)を説明



供与機材(自動屈折・角膜曲率計)



供与機材(スマート・アイ・カメラ)



サイトセーバーズのバレ代表スピーチ



OUI Inc. 中山 COO のスピーチ



モンベシヨラ保健大臣のスピーチ



熊谷臨時代理大使のスピーチ

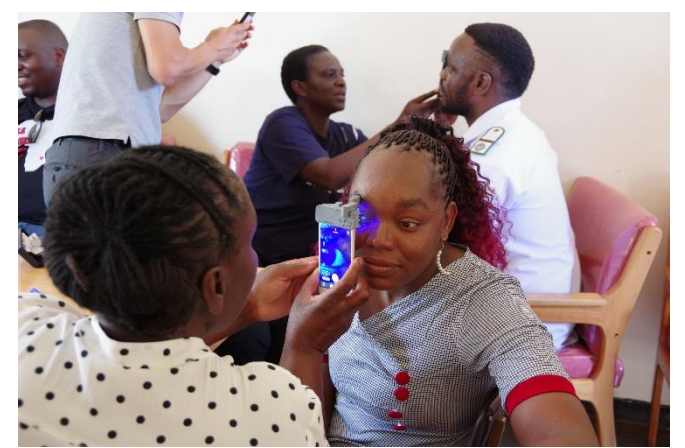


クウィディニ保健副大臣のスピーチ

(スマート・アイ・カメラ操作研修の様子)



OUI Inc. の COO 中島氏が眼科スタッフに対してスマート・アイ・カメラの操作を説明



眼科スタッフ同士で、スマート・アイ・カメラを操作し動画を撮影
※撮影した動画は、ネットを通じて保存され、遠隔地で眼科医が診察できる